

# 3 波打ち際をゆったりウォーク

若狭かほま  
ドコイコ!  
アニシヨ!  
ミニツアー



名峰「青葉山(若狭富士)」を仰ぎながら、波打ち際をゆったりウォーキング。漁村文化残る塩土地区、京都の別荘街、遠方からも参拝客がやって来る立石地蔵、伝統的民家などを楽しめます。



**漁村文化伝承館**  
高浜に昔から伝わる漁具や漁法、漁師まちの祭りや生活文化を学べます。また、漁師画家貝井善治郎さんの作品展示もあります。

**気圧計**  
高浜漁港付近には、昔から使われている気圧計が住宅地などに点在しています。この気圧計を見て、漁に出るか出ないかを判断しています。

**共同井戸跡**  
水道が整備される前に地域で使われていた共同井戸跡が今も残っています。

**無人販売所**  
立石は水はけの良い土地です。そのため、野菜はとつても甘みが強く、地元でも人気のブランドです。ぜひ、のぞいてみてね!

**所要時間**  
ゆっくり歩いて約2時間



- ふくいの伝統的民家
- 撮影ポイント
- おみやげ店
- 共同井戸跡
- 駐車場
- トイレ
- お地蔵様
- 気圧計

# 3 波打ち際をゆったりウォーク

若狭かほま  
ドコイコ!  
ナニシヨ!  
ミニツア



名峰「青葉山(若狭富士)」を仰ぎながら、波打ち際をゆったりウォーキング。漁村文化残る塩土地区、京都の別荘街、遠方からも参拝客がやって来る立石地藏、伝統的民家などを楽しめます。

## 1 望郷の灯火と石

ここ若狭高浜と能登半島の志賀町(石川県)との友好の証です。1632年、高浜の漁師が遭難により志賀町に流れ着いたことがきっかけとなり、若狭高浜の巧みな漁法を伝えることとなりました。

石は当時の上陸地にあった「諸願堂の浜石」をこの地に移したもので、隣は親元である若狭高浜の灯台です。いつも絶やさぬ若狭の灯火が、ふるさと若狭高浜に思いをはせるこの石を照らしています。



## 2 塩土まち並み

高浜の沖合いは、暖流と寒流が合流するため、多様な漁種が数多く生息し、漁の歴史は石器時代にまでさかのぼります。近年では、大正から昭和のはじめ頃に巾着網を導入し、「サバ」の水揚げで全国1・2を争い、またアジ・イワシ・タイ・ブリなどもト口箱が山積みとなりました。

塩土区は昔から漁業が盛んな地区で、路地が非常に狭く入り組んでいます。運がよければ、漁師さんの網仕事が見られるかもしれません。町中のところどころに見られる「気圧計」も、漁師町独特の特徴です。



## 3 若宮海水浴場

この海岸は、かつて年間150万人を数えた高浜町の海水浴場の中心でした。その歴史は古く、大正時代の臨海学校が始まりとされています。昭和に入ると、大阪毎日新聞社主催の「日本二十五勝地」に選ばれ、この一帯にも民宿や別荘が建ち並び、大変な活況を呈していました。



## 4 旧京人形 田中弥(たなかや)

若宮海水浴場に数多く建ち並んでいた別荘群の一つ。京都との長い交易の文化を持ち、若狭でも随一の海水浴場であった高浜には、田中弥のような京都ゆかりの別荘が数多く建ち並んでいました。

建物は京都の文化を感じさせ、前庭・中庭・主庭を有し、2階テラスからは、名峰若狭富士「青葉山」が一望できます。



## 5 立石地藏

台座を含めると高さは約4m80cmで、江戸末期の1846年に、日引の石工3名の手により刻まれました。そもそも、今も現存する千坂長助さんという家に男子が育たないため、当主が願いを込めて、子安地藏の建立を思い立ち、日引より自力で原石を運びました。しかし、途中力尽き、石は放置されたままとなっていました。その現状を憂いた村人らの呼びかけにより、まれに見る温顔あふれる子安地藏尊立像が完成しました。

子宝に恵まれない婦人や安産を願う人々が、京阪神からもあり、今も地区をはじめ多くの方々に親しまれています。



## 6 季(とき)の風(志水邸)

浜ぼうふうやおかひじきなど、浜辺の摘み菜料理や「民話の読み語り」をされているお宅。2階からは若狭富士「青葉山」のパノラマが一望できる素敵な海辺のお宅です。



## 7 釈宗演禅師生誕之碑

(しゃくそうえんぜんじせいたんのひ)

釈宗演は、32歳にして鎌倉五山のひとつ円覚寺派管長に就任、世界に「ZEN」を広めた偉大な宗教家としてその名を今に残しています。安政6年(1859年)にここ若宮で生まれ、幼名を一瀬常次郎といい、12才で仏門に入りました。管長就任後もアメリカでの世界宗教会議に日本仏教代表として参加するなど、世界をまたにかけて活躍。「夏目漱石」など、当時の著名人へも大きな影響を与えた人物です。



## 8 伝統的民家群

門戸(もんこ)邸をはじめ、福井県「ふくい伝統的民家」認定の民家が建ち並び、町屋づくりの建物の特徴である「うだつ」「そでかべ」を見ることができます。「うだつ」は「うだつが अगरならない」の語源であり、町屋の家と家の境目を埋めるとともに防火壁の役割を果たしていました。また、軒先が広く、それを支えるように棒が一本渡してあります。これを「でげた」といい、雪や雨で広い軒先が下がらないように桁を支えているものです。

